



〜特産品を目指して〜

朝倉山椒料理コンテスト



最優秀賞の「朝倉さんしょと八鹿豚の山菜おこわ」

朝倉山椒を使った、料理コンテストが9月18日、J A たじま総合営農センターで開催されました。

市が取り組んできた朝倉山椒の産地化で出荷量も徐々に増えています。

山椒のPRとさらなる消費拡大を目指してコンテストを開催したところ、市内6業者が10作品を出品され、会場は熱気につつまれました。

審査の結果、最優秀賞には「道の駅よるか但馬蔵」が出品した「朝倉さんしょと八鹿豚の山菜おこわ」が選ばれました。

〜市民の安全・安心に貢献〜 八鹿鉄工に感謝状贈呈

9月10日、養父市消防本部は、ドクターヘリの離着陸場の提供に協力いただいたているとして、八鹿鉄工株式会社に感謝状を贈りました。

八鹿病院にはヘリポートがないため、同離着陸場は、救急搬送になくてはならないものになっています。昨年5月1日から運用を開始して以来、本年8月10日で99回使用しており、その使用実績は但馬内の他離着陸場と比較しても突出しています。感謝状を受けた羽瀨常務は、「市民を守る活動に今後も協力したい」と話されました。



感謝状を受け取る羽瀨常務(右)

〜20年のキセキ〜 2回目の成人式

9月23日、株式会社オーシスマップの講堂において、「2回目の成人式」が開催され、養父市出身者など男女30人が参加しました。

主催した市商工会青年部村上進一部長は、「養父市のために何かアクションを起こしたい。成人してからの20年を振り返り、この機会に養父市の将来について考える機会にしよう」と初めて企画した」と話されました。式典では参加者を代表して、関宮の中尾英樹さんが「社会の中心となり、目上の人を敬い、下を導いていく」と40歳の誓いの言葉を述べました。



2回目の成人式での、誓いのことば

〜小佐地区自治協議会〜 赤米稲刈り



地域の人と一緒に刈り取りを手伝う子どもたち

9月29日、小佐地区自治協議会主催の「赤米稲刈り」が行われました。

小佐の赤米づくりは、20年ほど前から栽培が始められ、旧小佐小学校と地域が連携し、田植えや稲刈りなどを行い、奈良へ赤米献上をしてきました。

同協議会の森本俊一会長は、「長年、小佐小学校を通じて行ってきた奈良遷都祭へ赤米を届けることはできないが、地域発展のために、今後も赤米づくりを続けていきたい」と話されました。

赤米は、収穫祭で振る舞ったり、わらは、しめ縄づくりに利用されるそうです。

タスキをつないだ イヌワシ駅伝大会

9月23日、第21回養父市イヌワシ駅伝大会が、関宮小・中学校周辺農道の周回コースを会場に行われました。

この大会は、スポーツの振興や体力づくりなどを目的に開催しているものです。当日は、雨のため、コンディションが悪く、悪天候でしたが、但馬内外から、過去最多の107チームが出場し、熱戦を繰り広げました。

各チームの選手らは、5区間に分かれた最長約3キロのコースを沿道の声援を背に、自慢の健脚で競いながら、タスキをつなぎました。



スタートを待つ選手たち

【結果一覧】

(養父市関連、各部門入賞チーム掲載)

- ▼ 小学校男子の部 / 5位 Ⅱ 広谷小学校 H
- ▼ 小学校女子の部 / 準優勝 Ⅱ 宿南小学校
- 5位 Ⅱ 八鹿小6年生
- ▼ 中学校男子の部 / 準優勝 Ⅱ 養父中 A
- ▼ 中学校女子の部 / 3位 Ⅱ 養父中
- ▼ 一般男子の部 / 準優勝 Ⅱ 村岡高校 スキー部

個性豊かな作品が並ぶ 木彫フオークアート・おおや

台風が近づく9月30日、おおやホールで「第19回公募展 木彫フオークアート・おおや」の入賞者を招き、授賞式が開催されました。

この公募展は、今回で19回目を迎え、全国28都道府県から118点の応募がありました。審査の結果、グランプリ・文部科学大臣賞に林 湜和



グランプリ受賞作品「山の音」と作者の林 湜和さん

さん(長野県)の作品「山の音」が選ばれました。受賞した林さんは、「思いがけない受賞をいただき、晴れがましい気持ちでいっぱいです。作品は、木の量を減らさないようにして、量感のあるどっしりとした強さを表現しました」と受賞の思いを語られました。



多くの作品が並ぶ会場と鑑賞者ら

拝啓 市民の皆様

早いもので市政を担わせていただいていたから4年が経ち、この10月末で任期を終えようとしています。

今回の「拝啓市民の皆様」が、この任期最後の稿となります。この4年間、少子化・高齢化と人口減少への歯止め、地域の産業力の回復、市民と協働のまちづくりの実現、医師不足の解消と地域医療の確保、行財政力の強化など養父市の抱える多くの課題の解決に向け、懸命に取り組んでまいりました。特に、地方分権と財政の安定は切り離せない関係にあることから、市民の皆様のご協力をいただき、積極的に行財政改革に取り組み、その結果、危機的状況にあった実質公債費比率(財政の健全化を示す指標の一つ)が予定より早く健全な数値となったことは特筆すべきであります。

しかし、他の多くの課題については解決のための色々な施策を打ち出しましたが、まだその明確な効果を見るところに至っておりません。種を蒔いた状況であろうと考えますが、その種の芽吹きを確実なものにし、成長を育み見守ることが求められています。

また、これからも土を耕し続け、多くの種を蒔くことが必要です。このような思いから市議会における一般質問において、市長として引き続き2期目の市政運営に携わり、市民の皆様と一緒に養父市の発展に努力したい旨の答弁を行ったところであります。

4年間の市政運営にご協力、ご支援をいただきました市民の皆様には厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

市長 広瀬 栄